

秋田県

岩手県

気仙沼市

美郷市

南  
本吉

# 宮城県医師会の取り組み

令和7年度 日本医師会女性医師支援・ドクターバンク連携  
北海道・東北ブロック会議  
2025年10月18日（土）



公益社団法人 宮城県医師会

# 宮城県医師会 医師無料職業紹介事業 (Dr.バンク) 実績について

## 求 人 登録数推移(過去5年分)

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
新規登録(施設数)	13	14	7	14	8
新規求人(人数)	20	26	12	19	15
登録抹消(施設数)	▲9	▲12	▲12	▲13	▲8
登録抹消(人数)	▲20	▲18	▲18	▲36	▲17
登録施設数【総数】	93	95	90	91	91
登録求人数【総数】	238	246	240	223	221

### 求 人 登 録 施 設 の 登 録 抹 消 事 由

- ・有料職業紹介サービスより医師の紹介を受けた
- ・他の無料職業紹介サービスより紹介を受けた
- ・職員からの紹介、内部人事で調整した

## 求 職 登録数推移(過去5年分)

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
新規登録(男性)人数	2	5	7	6	7
新規登録(女性)人数	5	0	0	1	2
登録抹消(男性)人数	▲7	▲5	▲4	▲5	▲4
登録抹消(女性)人数	▲1	▲4	0	▲1	▲1
登録数(男性)【総数】	22	22	25	26	29
登録数(女性)【総数】	8	4	4	4	5
求職登録者数【総数】	30	26	29	30	34

## 求職者 への紹介・面接実施件数の推移

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
求職者への 求人紹介件数	10	4	11	12	6
その内、面接実施件数	5	4	4	6	4
その内、採用決定数	4	4	4	4	2

### 求 職 登 録 者 の 登 録 抹 消 事 由

- ・有料職業紹介サービスより就職先の紹介を受けた
- ・宮城県医師会ドクターバンクの紹介で就職先が決定

# 医学生/研修医セミナー・懇談会

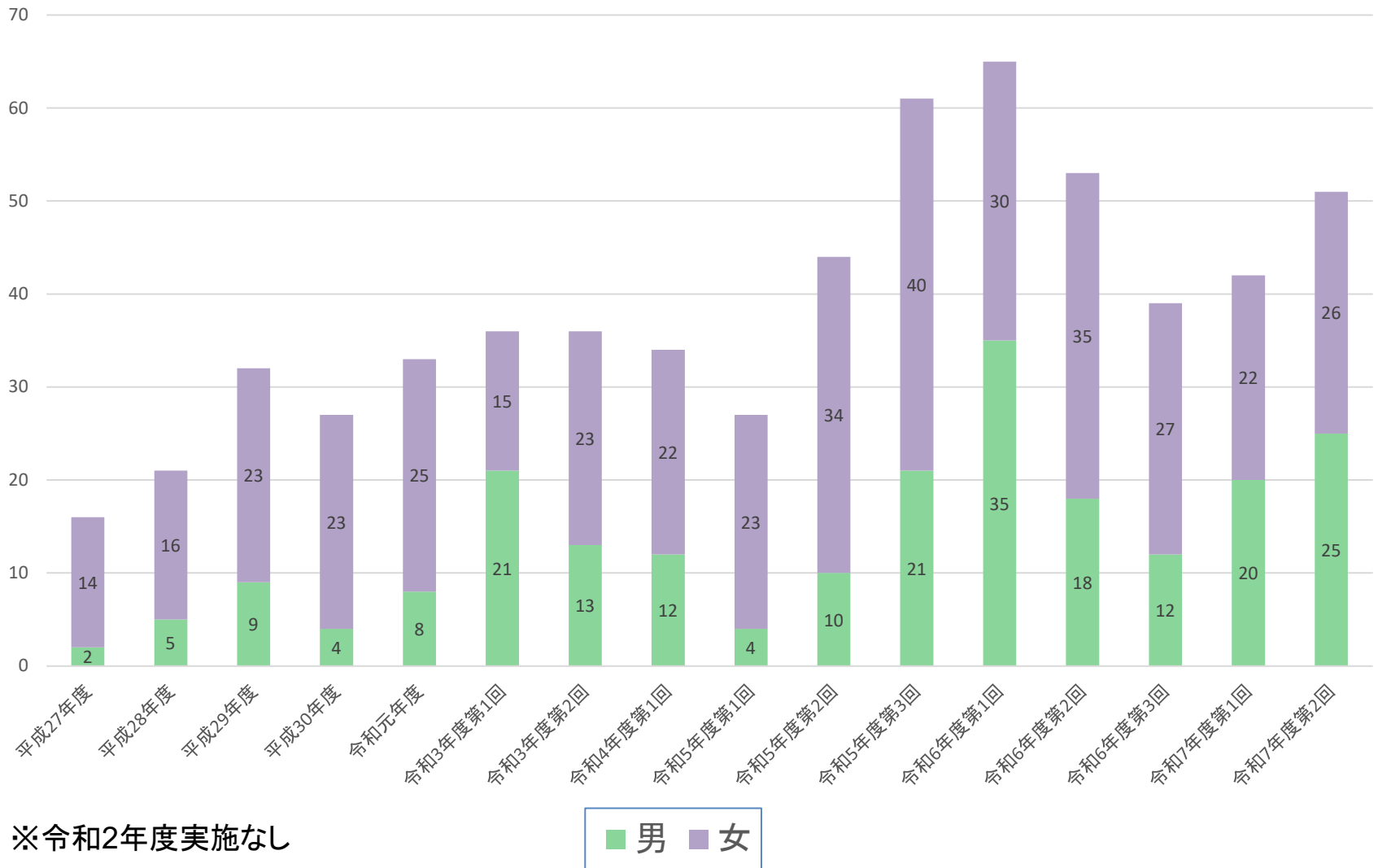
年3回開催

開催様式：現地とwebのハイブリッド方式



- 👉 女子医学生/女性医師に限らない支援の必要性
- 👉 医学生/研修医世代の不安は支援策考案に直結
- 👉 医学生/研修医時代からの医師会の存在の認識

# 医学生・研修医セミナー 参加人数と男女比推移



# 大学でのキャリア教育

東北大学(～2020年) 女性医師支援推進室主催

医学部 **1年生**の後半2コマ

- ・「医師としてのワークライフバランス」についての講義
- ・ロールモデルの講演 ・未来年表づくり

医学部 **4年生**の後半3コマ

グループディスカッション（子育てと仕事の両立のエピソードシナリオ）

東北医科薬科大学(2023年～) キャリア支援課主催

医学部 **3年生**の前半1コマ

- ・自分の子育てと仕事の両立の紹介と「医師としてのワークライフバランス」についての講義
- ・グループディスカッション（子育てと仕事の両立のエピソードシナリオ）





# キャリアと女性特有のライフイベント

みちよレディースクリニック 倉片三千代



# COI開示

倉片 三千代

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

## 病院に勤務する医師の男女構成(%)

	男性	女性
total	75.5	24.5
内科	78.2	21.8
外科	91.3	8.7
産婦人科	52.1	47.9
小児科	61.8	38.2
麻酔科	57.2	42.8
臨床研修医	66.3	33.7

(令和4年12月31日現在 医師届出数より)



# 産婦人科の現状

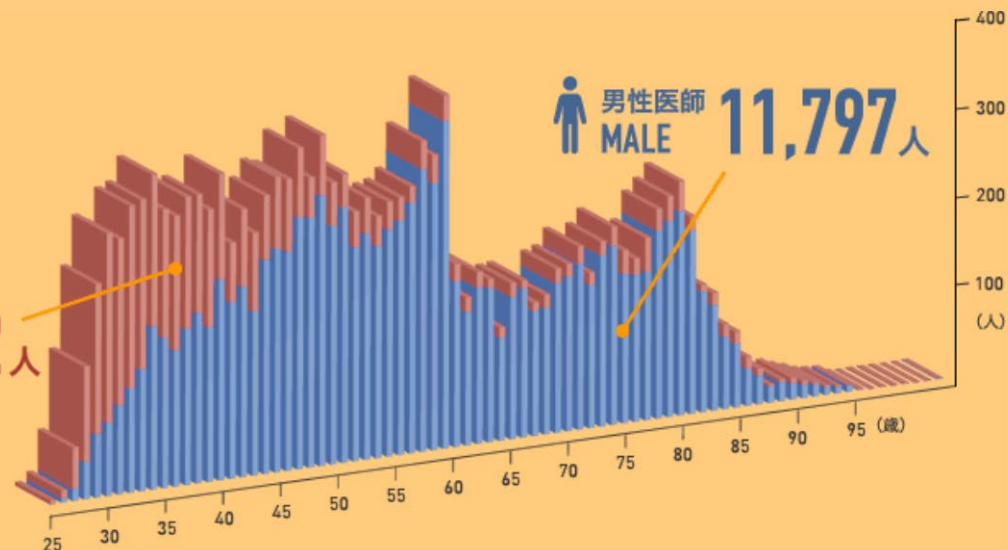
- ▶ 女性医師が急激に増加している。他科よりもその傾向が顕著
- ▶ 今までは、女性医師の負担を減らす事が進められてきたように感じますが、今後は男性医師の負担も減らし、男性も女性も無理なく当直など回せるようにする事が求められていると感じます。

日本産科婦人科学会  
【年齢別会員医師数】 2006年11月

2006 DEC.

女性医師  
FEMALE 3,742人

男性医師  
MALE 11,797人



日本産科婦人科学会  
【年齢別会員医師数】 2013年2月

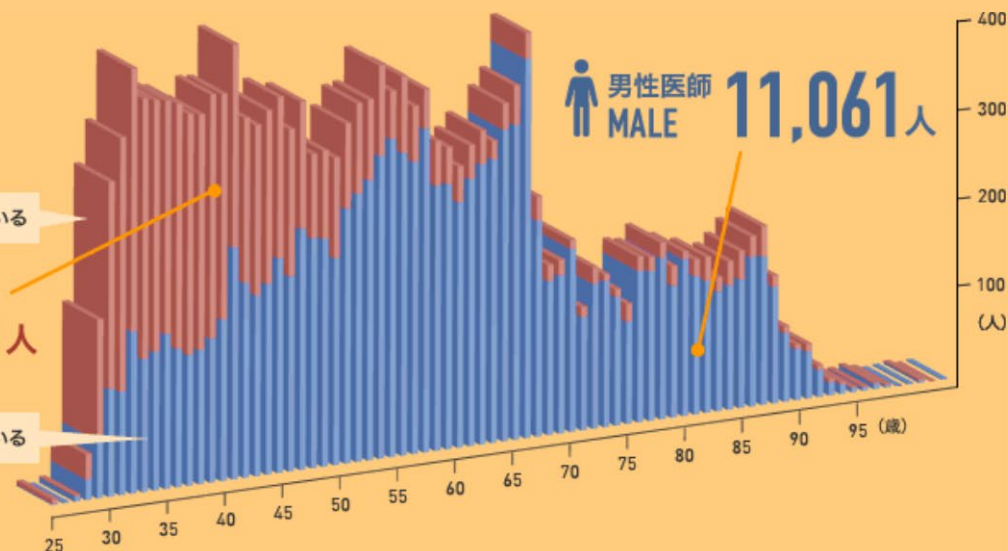
2013 FEB.

女性医師  
FEMALE 5,036人

男性医師  
MALE 11,061人

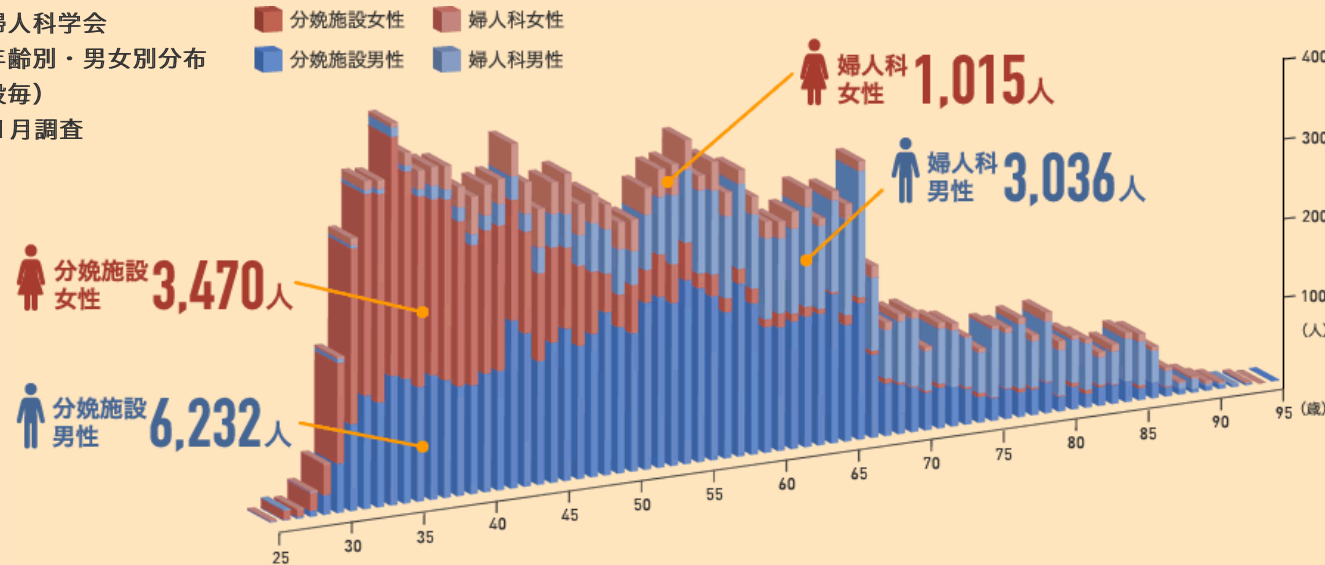
女性が増えている

男性が減っている



# 分娩を扱う女性医師は年齢とともに減少

日本産科婦人科学会  
学会員の年齢別・男女別分布  
(所属施設毎)  
2014年11月調査



新しく産婦人科を専攻する医師のうち女性は60%とほぼ一定。  
分娩および育児による分娩離脱、産婦人科離脱は減ってはきているがさらに減らさなければ産婦人科診療、特に分娩は危機的状況になる。

- ▶ 年齢を重ねると、分娩を扱わなくなる女性医師が増加。⇒子育てなどに伴い、当直勤務、夜間勤務から撤退
- ▶ 周産期医療の崩壊が危惧される

# 女性医師支援のポイント

- ▶ 男性医師に理解を得る。（チーム医療、当直翌日の勤務緩和、分娩手当など待遇改善）
- ▶ 現場から遠のかせない配慮をする（妊娠、育児中の勤務緩和、時短勤務、院内保育所設置）
- ▶ 全体の仕事量の軽減を図る（セミオープンシステム、メディカルクラーク）
- ▶ 仕事にモチベーションを与える
- ▶ 指導的立場の女性医師を育てる

## 東北大学産婦人科の 取り組み

- ▶ 主治医制ではなく、チーム医療
- ▶ 子育て中の女性医師は、それぞれの事情に応じた勤務体系を選択。人によってはフルタイムでも、定時には帰る。
- ▶ 当直は可能な人が可能な時間に。
- ▶ 当直の翌日は午後フリー（産科）
- ▶ 業務量の軽減（メディカルクラークなどの導入）
- ▶ 大学は人数が多いので、こどもの発熱などのやむを得ない場合には休んで他の人がカバー。
- ▶ 女性医師が働きやすい職場は、男性医師も働きやすい。
- ▶ 実際、こどもの入学式、発表会などで休む男性医師もちらほら。
- ▶ 女性医師が多い分、ロールモデルが存在。いろんな相談もしやすい？
- ▶ 妊娠、出産にかけてはプロなので理解は得られやすい、かも。
- ▶ 産婦人科集談会では、託児を設置。参加しやすい体制に。